

ばんげい 教育ほつにゅーず かわら版

こ みち

教育の小径 No.10



今月の花／ヒマワリ
花ことば／敬慕・熱愛・あこがれ

今月の「今日は何の日」

8月 1日：水の日・観光の日
8月 3日：ハサミの日
8月 4日：箸の日
8月 6日：広島原爆の日
8月 7日：立秋・鼻の日
8月 9日：長崎原爆の日
8月10日：道の日・健康ハートの日
8月12日：国際青少年デー
8月15日：終戦記念日
8月21日：献血記念日
8月23日：処暑
8月25日：即席ラーメン記念日
8月30日：冒険家の日
8月31日：野菜の日



北 俊夫先生
国士舘大学教授

小学校と中学校の連携

- 小学校と中学校の教師の間には、相互に誤解や不信感が生まれていることが多く、互いに学び合う姿勢をもつことが大切です。
- 小学校と中学校の連携を図るためには、互いに教育内容について知ること、共に授業を参観し合うこと、そして授業を共に計画し実践することがポイントです。

「小・中連携」なぜ進まない？

「小・中連携」が叫ばれて久しい。いまや「小・中一貫」が課題になっているにもかかわらず、両者のミゾはなかなか埋まりません。「小・中連携」が進まないのはなぜでしょうか。

中学校の教師からは「小学校ではこんなことも教えていないのか」という声が聞かれます。一方、小学校の教師は「あんなに活動的だった〇〇さんの持ち味が、中学校では生かされていない」と言います。双方に大きなズレがあるようです。教師の意識の違いは、長い間に培われてきた学校文化によるものなのでしょうか。

「中1ギャップ」などと生徒のことを問題にしますが、小学校と中学校の教師の意識にもギャップがありそうです。それらの多くは互いのことについて、十分な知識や情報がないことによる、誤解にもとづくことが多いようです。

いまなお「小・中連携」が進まない

理由の一つは、相互に不信感と誤解があり、教師の交流や協同が十分行われていないことにあります。

改めてなぜ「小・中連携」なのか

小学校と中学校はそれぞれに特色があって当然です。しかし、両者の間の接続が緩やかでないと、迷惑するのは子どもたちです。「中1ギャップ」を解決するためには、両者のミゾを埋める努力が欠かせません。

小学校の6年では中学校での指導方法を意識して指導し、中学校の授業に戸惑わないようにします。一方、中学校1年では小学校での指導方法を取り入れ、一部学び直しを行いつつ、中学校らしい指導に移行していきます。両者の歩み寄りが求められます。

「小・中連携」問題を解決するために、まず小学校に課せられている課題は、小学校で身につけることが求められている学習内容をしっかり身につけて中学校に送り出すことです。一方、中学校には学習内容を定着させるため

に、指導方法をさらに改善することが求められます。授業の充実と学力の定着は、引き続き重要な課題です。

ホップ・ステップ・ジャンプ

「小・中連携」を図り、一貫教育に発展させるためには、次のようなステップが考えられます。

【ホップ】まず知ることです。中学校の学習指導要領や教科書に目を通すことです。これにより、指導内容の関連性や系統性を理解することができ、指導する内容や取り上げる教材の範囲や程度を確認することができます。

【ステップ】次は観ることです。「百聞は一見にしかず」と言います。授業を相互に参観し合うことにより、優れた授業技術、必要な指導方法を互いに学ぶことができます。中学校の教師からは教材や学習内容について、より専門的な知識を得ることができます。授業の相互参観は、学校や地域の研究会として行うとよいでしょう。

【ジャンプ】共に授業を計画して、共同で授業実践に取り組みます。チームティーチングや交換授業も考えられます。共に実践することによって、人間関係も深まっていきます。中学校の教師が小学校の6年などで授業をすると、子どもたちは新鮮さを覚え、中学校への夢や期待をふくらませます。

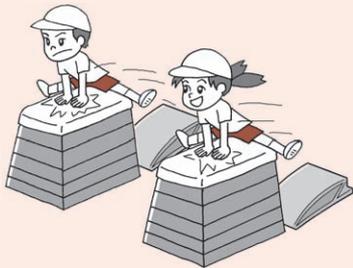
「小・中連携」の問題は古くて新しい課題です。できることから「はじめの一步」を踏み出したいものです。

子どもたちが楽しみにしている教科に体育科があります。人気のある教科の一つです。それはボールや器械などを使って体を動かすからでしょう。

ところが、教師がいつまでも説明していて、運動になかなか移行しない場面に出会うことがあります。またグループで長時間討論して、用意された器具がいつまでも使われないこともあります。これらは、実際の運動量や運動時間が少ないという問題です。もちろん過度の運動にも問題があります。

授業に当たっては、適度の運動時間を計画しておきます。例えば跳び箱を飛ばせるとき、30数人の子どもたちがいるとき、何組の跳び箱を用意するかということです。友だちが飛んでいる様子を観察することも学習ですが、やはり実際に飛ぶ時間や回数を十分に確保したいものです。

子どもたちは思う存分体を動かして汗をかき、授業の終了時に心地よい疲れを感じたとき、体育科の時間に充実感を味わうものです。これは子どもの表情から観察することができます。



新学習指導要領（総則）は、「学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」を求めています。これは子どもによる自己評価を奨励しているものです。

自己評価は、自分の学習が目標とどこにどれだけ近づいたか。これからいかに学習すべきかを考える機会になります。子ども自身によって学習のめあてが設定され、その子どもなりの規準によって評価するという作用が、学習意欲を高める活力増強剤としての働きをしているからです。

また、自分で自分を評価するという作業をとおして、自分を教育していこうとする意思や態度や能力、いわゆる自己教育力が養われます。

これまでの自己評価は、学習の終末

において、教師によって「やらされる」評価であったように思われます。しかもそこでは、数量的な基準で判断する自己評価が中心でした。これからの学習の振り返りでは、学習の変容を自覚し、自信をもったり成就感を味わったりしながら、新たな活動が創造できるような自己評価にしたいものです。



教育キーワード キャリア教育

キャリア教育は、望ましい勤労観、職業観をもち、将来の職業生活に主体的に参加しようとする人間を育てる教育です。特別な教育ではありません。

国立教育政策研究所が作成した報告書「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究」には、学習プログラムの枠組み（例）が提案されています。小学校においては、いろいろな職業や生き方があること、身

近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつこと、計画づくりの必要性に気づき、作業の手順が分かること、自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとすることなど、学年ごとの指導事項が示されています。

キャリア教育は、学校から社会への出口だけでなく、小学校においてもキャリア教育のねらいや視点を意識した教育活動が求められています。

学級通信に使える今月のイラスト



花火大会



ビニールプール

Information (PR)

移行措置 完全対応 2学期(後期)も ばんげいテスト

テストラインナップ

スタンダードな基礎・基本!	学力定着!	習得&活用!
基礎・基本	学力定着 プレテスト	活用力 学力定着 プレテスト
基礎・基本	基礎・基本	基礎・基本
A	B C	A+ N+
期末なし	「書く」なし	

※国語のみ

編集後記

今回は「小・中連携」という難題に言及していただきました。小学校・中学校の先生がお互いに「知る」→「観る」→「実践する」という「ホップ・ステップ・ジャンプ」の実践交流が必要とのご提言です。問題解決のためにぜひご参考ください。(K記)